

第9回

おおさか生涯スポーツ コンベンション

平成15年1月25日

大阪府立女性総合センター

〔基調講演〕

「スポーツが

まちづくりに

果たす大切な役割

～スポーツ、まちづくり、生涯スポーツ～

日本のスポーツは今、
いろんなところで綻んできています。
どんなところが綻んできているのか
4つの観点からみていきます。

学校体育の綻び

少子化と先生の高齢化、新指導要領で体育の時間数減、運動部活動離れや受験の影響などにより学校体育は危機に瀕しています。

すべての土曜日が休みになった子どもたちはどこで何をして過ごすのか？
学校も地域も支えきれない現状の中、綻びは拡大する一方です。

【参考】運動部離れの現状（クラブ数の変化）

校種	H11	H13（減クラブ数）
中学校	4307	4181（ 126）
高校	3363	3292（ 71）

地域スポーツの綻び

スポーツ振興の切り札として注目される総合型地域スポーツクラブも、成功例とそうでないところとの差は歴然です。単一種目型から総合型へ無理に移行させようとして軋轢を生むケースも見受けられます。

また、官僚的な公共スポーツ施設運営に利用者から不満の声が出たり、地域のスポーツクラブのガバナンス（統治）が、補助金等の絡みで実質的に行政に縛られているなどの問題点も綻びを拡大する要因になっています。

企業スポーツの綻び

1991年から2001年までの間に廃部になったトップリーグのクラブ数は213にのぼりました。

このことは、企業スポーツの広告宣伝塔としての役割の終焉と企業活動に支えられてきたスポーツからの転換期の到来を意味します。中には、クラブ関係者が何も知らされないうちに廃部になるケースもあり、今や「切られる前に逃げろ！」が合言葉のように囁かれるようになってきました。

【参考】企業スポーツの事業化例（アメフト：リクルートシーガルズ）

クラブが親会社にスポンサーになってもらい独立。小学生を対象にフラッグフットボールを教えるなど地域に密着した活動を展開しながら存続し、今年度実業団日本一に輝く。

プロスポーツの綻び

選手の流出が相次ぎ空洞化が進むプロ野球は言うまでもありませんが、大相撲の綻びも危機的状況といえます。

若貴ブーム全盛の1996年には全場所ほぼ100%大入満員だった大相撲ですが、今では地方巡業さえ大幅な観客数減を強いられる状況に陥っており、満員御礼が消える日も近いのではないかと噂されています。

また、サッカーJリーグは、地域密着型スポーツモデルの提示やワールドカップの開催、J2の新設等により1997年を底にして人気を回復しているものの、先に行われた天皇杯決勝（鹿島アントラーズ対京都パープルサンガ）のテレビ視聴率は3.5%と非常に低調です。

講師 原田 宗彦氏
大阪体育大学大学院 教授

